

万博公園探鳥会

2022年1月14日(土)

リーダー 田中宏・中筋好子・橋本昌宗・大矢麻由美
有賀憲介・平軍二(090-6901-1425)

1. 千里の鳥・万博の鳥「モズ雌」

(写真 有賀憲介)



あけましておめでとうございます。

今月の鳥は有賀氏が年末に万博公園で写された大阪府の鳥でもある「モズ」を紹介します。

モズを大阪府の鳥として指定するとき、「モズ」と「オオヨシキリ」がしのぎを削ったが、最終的に堺市民のパワーでモズに軍配が上がったという裏話が伝えられている。(文献★1)

実際、堺市を中心にモズが多かったことは、「百舌鳥古墳群」など百舌鳥のつく地名が広く残っていること、例えば電車の駅名では百舌鳥駅(JR 阪和線)、中百舌鳥駅(大阪メロ・南海高野線)、百舌鳥八幡駅(南海高野線)があることから理解できる。しかし、今では田んぼのほとんどが住宅地に変わり、草原(里地)が無くなっており、モズは少なくなっていると思われる。

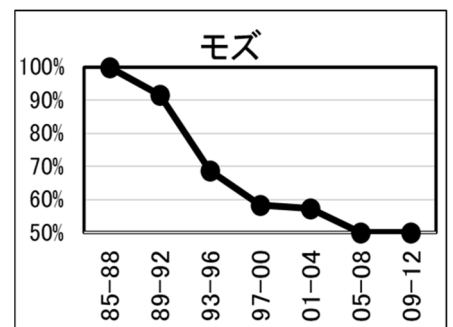
万博公園定例探鳥会のモズの観察頻度記録を見ると、草はらがないと繁殖子育てが難しい鳥であるとわかる。

万博探鳥会をスタートした1985年の頃、モズは毎月探鳥会で観察できる留鳥であったが、徐々に

観察頻度が減少し、最近では冬鳥となり秋～早春に観察できるのみとなっている。万国博覧会の跡地が万博公園に改変

された(木々が植えられた)当初は、木々の間に草はらがあり、草原の鳥モズが繁殖・子育てをしていたが、木々が大きくなるとともに草はらがなくなり、モズが繁殖しなくなったことによる。(文献★2)

モズは草原＝里地の鳥として身近に生息していたことから、その行動もいろいろ知られている。例えば秋の季語として「モズの高鳴き」があるが、実際に秋到来とともに木の天辺から「キィーキィー、キチキチキチ」とモズの甲高い声が聞こえてくる。鋭く挑戦的なモズの声は、秋～冬にかけて1羽だけのなわばりを確保するため、秋の初めにモズ同士で激しい戦いをする。



この縄張りを維持する高鳴きモズを表す俳句として、

「ある朝の鴟(もず)聞きしより日々の鴟」 安住敦
があり、納得できる。(文献★3)

11月にはなわばりが安定し、争いは終わり「モズの高鳴き七十五日」と、モズは1羽きりで冬を迎える。モズの高鳴きを聞いてから75日目に霜が降りだすと、農作業の目安にしているといわれている。

有賀氏の写真はモズの雌、愛らしい顔をしているが、小型の猛禽類といわれているように、嘴は鋭く鉤状に曲がっている。この嘴でスズメのヒナを食べることがあり、また捕まえた小動物をなわばり内の尖った枝に突き刺す習性があり、「モズのはやにえ(早贄)」といわれている。捕えられたカエル・トカ

ゲが、ウメの尖った枝や有刺鉄線の針金など、尖ったところに刺されているのを見るが、このはやにえは餌の少ない冬に食べているとのことである。

モズ(百舌鳥)の名前は、いろんな鳥の鳴き声をまねることからつけられているが、私もオオヨシキリかと思われるモズの声を聴いたことがある。

コロナ禍は第8波が始まったようで、インフルエンザ流行期と重なり、警戒しながらの開催を余儀なくされている。探鳥会は申込制・定員制、そしてマスク着用を継続しつつ開催する。

★文献1 大阪自然環境保全協会編「大阪の野鳥」
松籟社 1983年

★ " 2 平軍二「万博公園定例探鳥会記録」

★ " 3 小林清之介 季語深耕「鳥」角川選書 1989年

2. 12月探鳥会結果より

冬の小鳥はアトリが何回か小群で飛び回り48羽、ツグミ6羽、ジョウビタキ・アオジが各5羽とまずまずであったが、シロハラ・ルリビタキ・シメ・イカル、漂鳥のウグイス、留鳥のキジバト・ムクドリがともに各1羽ずつと少なく、冬鳥のカモはいなかった。

そんな中、猛禽ではカラスとの大きさから(+添付写真)オス・メスとわかるハイタカが飛び、ノスリも上空を飛んだ。終了後、日本庭園はす池でバンの子鳥と若鳥が確認され追加したが、34種にとどまった。冬鳥の本格到来を期待していた割には少なかったが、快晴の穏やかな小春日和で、残っている紅葉・黄葉、そして出てくる鳥を楽しみながら、気持ち良く公園内を歩くことができたので、参加された方は楽しんでくださったと思われる。来週に予想される本格寒波で、冬の小鳥が増えることを期待して、探鳥会を終えた。

ノスリ・ハイタカとカラス(橋本昌宗) →

3. 万博公園の変遷①

今月から万博公園の変遷について、説明する。私(平)が「万博公園の森の変化と鳥」に気づいた2枚の万博公園空中写真を次ページに並べた。2004年に万博探鳥会20周年のデータをまとめたとき、当時の万博機構より利用を許可された空中写真である。



万博公園探鳥会をスタートした1985年ころ毎月観察できたキジが、徐々に減り、探鳥会では1998年4月以降確認できていない。キジがなぜ減ったか、いなくなったか、その答えを出してくれたのが、次ページの空中写真である。

公園に植えられた木が小さい時は、木々の間に草が生えていて、園内全体が草はら状態でキジの天国であった。しかし木々が大きくなると草はらが無くなり、キジが住めなくなった。

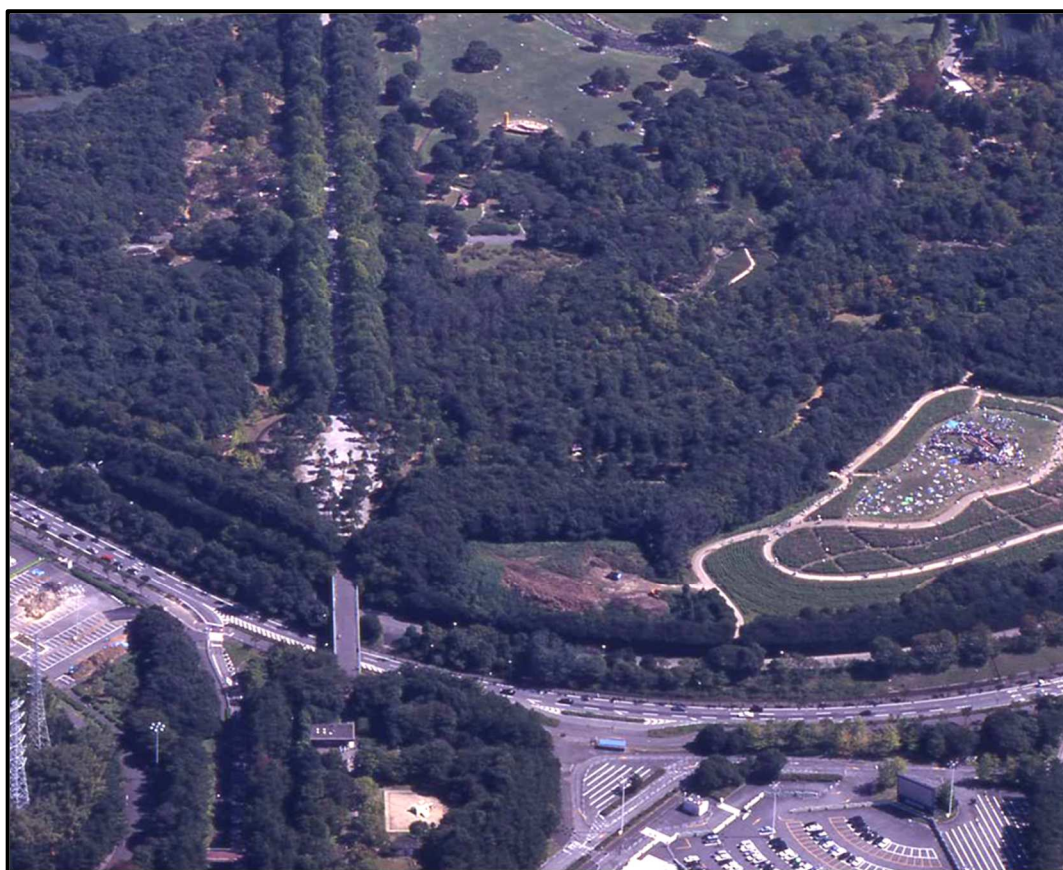
←2012/4/19 廣瀬達也氏(春の渡り鳥調査時14年ぶりに観察)



万博公園の変遷①万博公園自然文化園 空中写真



↑1982年頃 万博公園自然文化園 植えられた木1本1本が見える
木々の間が草はらでキジのすみかとなっていた。



↑1991年(??) 木々が連なり森になっている。林床に草はらがなく、キジは住めない。
尚、花の丘は、樹林が育たなかった場所で、お花畑に改変された。

4. 万博公園探鳥会観察種 チェックリスト

種名	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1
	9	14	11	9	27	10	8	12	10	14
1 24 オシドリ										
2 26 オカヨシガモ	1									
3 27 ヨシガモ										
4 28 ヒドリガモ										
5 30 マガモ		3								
6 32 カルガモ	24	14	2	8	7	8	12	15	4	
7 35 オナガガモ										
8 38 コガモ								6		
9 42 ホシハジロ										
10 46 キンクロハジロ										
11 58 ミコアイサ										
12 62 カイツブリ	9	8	3	14	5	4	6	3	6	
13 74 キジバト	13	12	3	5	2	5	7	1	1	
14 78 アオバト	1	2								
15 127 カワウ	9	11	5	2	3	3	3	2	3	
16 139 ゴイサギ										
17 144 アオサギ	1	1	1	2	2	2	1	4	2	
18 146 ダイサギ	1									
19 148 コサギ		1					1			
20 174 バン					2	2			2	
21 175 オオバン	1									
22 187 ツツドリ										
23 192 アマツバメ										
24 195 ケリ										
25 202 イカルチドリ										
26 203 コチドリ										
27 219 タシギ								1		
28 244 インシギ										
29 286 ユリカモメ										
30 339 ミサゴ										
31 340 ハチクマ							1			
32 342 トビ	2									
33 354 ツミ										
34 355 ハイタカ								2	3	
35 356 オオタカ										
36 357 サシバ						1				
37 358 ノスリ									1	
38 383 カワセミ		1	2	1	3	2	3	2	2	
39 390 コゲラ	6	6	5	1	4	4	2	2	6	
40 401 チョウゲンボウ	1				1					
41 407 ハヤブサ										
42 412 サンショウクイ										
43 418 サンコウチョウ										
44 420 モズ							7	1	4	
45 435 ハシボソガラス	4	17	12	18	14	7	6	7	15	
46 436 ハシブトガラス	127	23	13	31	33	54	43	73	54	
47 442 ヤマガラ	6	6	5	4	11	13	11	6	12	
48 445 シジュウカラ	36	24	10	7	14	23	20	12	15	
49 457 ツバメ	10	15	8	7	4	1	7			
50 459 コシアカツバメ		3			1	3				

種名	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1
	9	14	11	9	27	10	8	12	10	14
50 463 ヒヨドリ	27	8	6	12	9	11	43	27	42	
51 464 ウグイス	9	12	3	5			1	1	1	
52 465 ヤブサメ										
53 466 エナガ	4	10	6	4	7	2	27	10	6	
54 477 メボソムシクイ										
55 479 エゾムシクイ										
56 480 センダイムシクイ										
57 485 メジロ	25	6	8	20	19	29	17	11	26	
58 492 オオヨシキリ										
59 501 ヒレンジャク										
60 506 ムクドリ	23	18	9	88	2		2		1	
61 508 コムクドリ										
62 514 トラツグミ										
63 521 シロハラ	22									1
64 522 アカハラ	2									
65 525 ツグミ	26									6
66 530 コマドリ										
67 536 ルリビタキ									1	1
68 540 ジョウビタキ									3	6
69 542 ノビタキ										
70 549 イソヒヨドリ					2	2				
71 552 エゾビタキ								3		
72 554 コサメビタキ							4	8		
73 558 キビタキ		5	3				2	1		
74 561 オオルリ	1									
75 568 ニュウナイスズメ	2									
76 569 スズメ	31	49	33	102	33	48	42	22	71	
77 573 キセキレイ					1		4	1	4	
78 574 ハクセキレイ	4	4	1	3	34	28	6	10	14	
79 575 セグロセキレイ	2	2	3	3	3		1		2	
80 580 ビンズイ										
81 584 タヒバリ										
82 586 アトリ	12							43	48	
83 587 カワラヒワ	21	16	14	46	1	1		12	7	
84 600 シメ	3								1	
85 602 イカル	2		1		1		2		1	
86 610 ホオジロ										
87 617 カシラダカ										
88 624 アオジ	7								1	5
89 ドバト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
90 ソウシチョウ	2									
91 カッコウSP										
92 ムシクイSP					1	1	2			
93 タカSP										
94										
種類数(種)	37	27	24	22	28	26	30	28	34	
個体数(羽)	477	277	156	383	219	260	289	279	373	
天候	晴	晴	曇後雨	曇時々雨	曇時々雨	晴	晴	晴	晴	
参加者数(人)	5	12	16	10	5	16	33	28	28	

次回 2月11日(土) 9:30 自然文化園中央口

日本野鳥の会 HP より fomuzs 方式でお申し込みをお願いします。

(fomuzs 方式を使い慣れていない方は、平あてにメール or 電話をお願いします。)